

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 260人 国語B 260人

② 数学A 258人 数学B 258人

5 留意事項

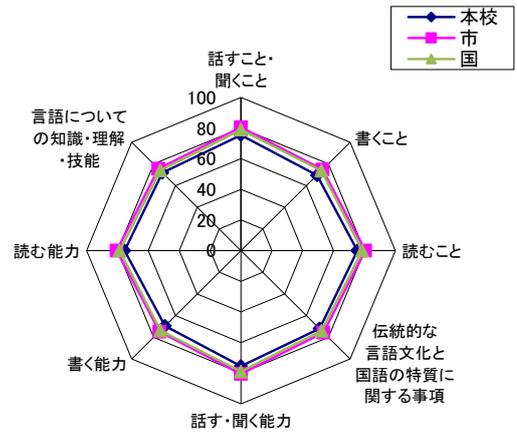
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

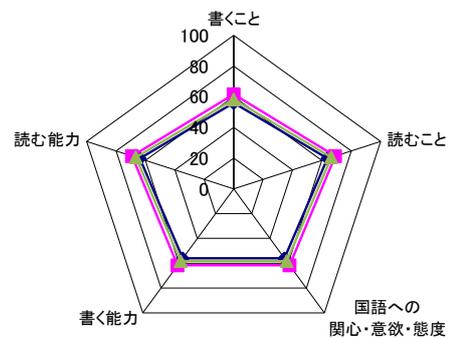
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.4	80.5	78.9
	書くこと	69.6	74.7	73.7
	読むこと	75.4	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.0	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.4	80.5	78.9
	書く能力	69.6	74.7	73.7
	読む能力	75.4	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	72.0	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	56.0	61.6	58.3
	読むこと	63.8	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	56.0	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	56.0	61.6	58.3
	読む能力	63.8	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

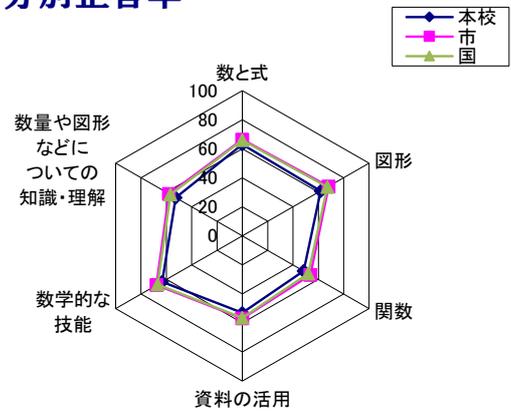
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分の関係に注意する問題の正答率は県、全国と同程度である。</p> <p>●話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較するという問題については、県より9ポイント、全国より9.4ポイント低い。</p> <p>●互いの発言を検討して自分の考えを広げるという問題については、県より4.2ポイント、全国より2.4ポイント低い。</p>	<p>・相手の話の要点がどこにあるのか、小グループでの意見交換の場などで注意深く聞くようにする。また、的確に話を聞くポイントについて資料を精選して生徒に提示するなどの学習を行っていく。</p>
書くこと	<p>○課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えるという問題については、県より5.9ポイント、全国より6.2ポイント高い。</p> <p>●文章の構成や表現の仕方について考え、根拠を明確にして自分の意見を書くという問題については、県より10.1ポイント、全国より9.2ポイント低い。</p>	<p>・各学年に配置されている「書くこと」の学習教材を使うだけでなく、巻末の「学びを支える言葉の力」を活用することで、書く力を身に付けさせるようにする。</p>
読むこと	<p>○目的に応じて必要な情報を読み取るという問題については、県より3.1ポイント、全国より3.4ポイント高い。</p> <p>○資料を活用するときに適切なものを選ぶ問題については、県より0.4ポイント、全国より0.7高い。</p> <p>●奥付を使って本についての情報を得るという問題については、県より9.4ポイント、全国より8.8ポイント低い。</p>	<p>・小説などの教材を通して、場面や登場人物の心理状態を捉えるなどして、登場人物の心情や行動の背景を考えさせる。</p> <p>・説明文の読解では、日頃の単元の読解で筆者の主張を短作文にまとめさせるなどして、筆者の主張の中心的な部分を押さえられるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題の正答率については、県、全国と同程度である。</p> <p>○辞書を活用して漢字が表している意味を正しく捉えるという問題については、県より3.1ポイント、全国より2.2ポイント高い。</p> <p>●文字の形や大きさ、配列に注意して書くという問題については、県より5.7ポイント、全国より4.9ポイント低い。</p>	<p>・文法の学習材については、プリントを適宜利用するなどして品詞の分類などについて押さえさせる。また、漢字については各学年とも単元テストを実施し、漢字の定着を図る。古文の仮名遣いについては、古文の学習材だけでなく、詩や短歌、俳句など古典以外の学習材でも出てくることはあるので、適宜指導する。</p>

宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

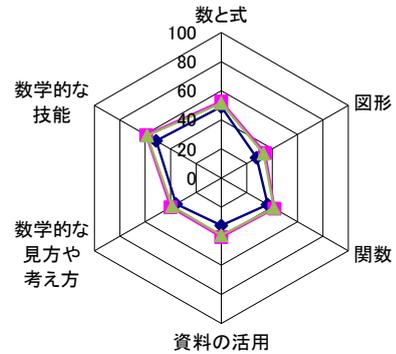
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.0	66.4	65.9
	図形	61.8	68.1	67.1
	関数	48.4	53.7	52.0
	資料の活用	53.0	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.3	67.8	66.9
	数量や図形などに与える知識・理解	52.6	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	49.0	52.7	51.5
	図形	27.9	34.5	33.3
	関数	36.5	41.9	41.4
	資料の活用	32.6	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	35.7	39.9	38.9
	数学的な技能	51.3	59.2	58.5
	数量や図形などに与える知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○ 一元一次方程式の解の意味の理解について、県平均を4.5ポイント、全国平均を1.2ポイント、上回っている。</p> <p>○ 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することについては、県平均を4.8ポイント、全国平均を2.3ポイント上回っている。</p> <p>● 分数と小数の計算について、県平均を9.4ポイント、全国平均を15.3ポイント下回っている。</p>	<p>・小学校程度の基礎的な計算力が身につけていない生徒が多数見受けられるので、授業のスタートの5分間の計算演習を継続していくと共に、個別指導により力を入れて指導していく。</p>
図形	<p>平行線や角の性質を用いて各の大きさを求めることや、多角形の外角の和の性質の理解については、県平均、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>● 円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることについては、県平均を13.1ポイント、全国平均を14.2ポイント下回っている。</p>	<p>・空間図形を捉えられていない生徒が多いので、模型やパソコンによるCGなどを利用し、より理解を促すよう指導していく。</p> <p>・演習問題の中で、1年時の内容の学び直しを含めて、数多くの問題を解かせ、確実に習得させるよう努めていく。</p>
関数	<p>一次関数のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求めることについては、県平均、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>● 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、県平均を8.0ポイント、全国平均を10.9ポイント下回っている。</p>	<p>・関数についての苦手意識が強い生徒が多いので、実生活に役立つ事例や興味・関心を高める事例を意識して指導していく。また、「表」「式」「グラフ」を関連づけながら、理解を促すよう努めていく。</p>
資料の活用	<p>○ 測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味の理解しているに関しては、県平均を0.3ポイント、全国平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>● 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて、説明することについては、県平均を5.5ポイント、全国平均を6.9ポイント下回っている。</p>	<p>・資料の傾向を捉え、理由を的確に説明できるよう、普段の授業から言語活動を意識して取り入れ、自分の考えを発表できるよう指導の充実を図る。</p>

宇都宮市立陽南中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

次の質問では「思う」「どちらかといえば思う」を合わせた肯定的な回答が9割を超えた。

- 友達との約束を守っている(99.2%)
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある(97.6%)
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う(96.5%)

次の質問などでは、肯定的回答が県や全国の数値を5ポイント以上高く上回り、本校の特徴を示している。

- 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。(93.5%、全国より+10.7、県より+5.9)
- 自分には良いところがある。(81.9%、全国より+11.7、県より+7.1)
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦をしている。(78.7%、全国より+9.1)
- 将来の夢や目標を持っている。(77.9%、全国より+6.8)
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。(77.5%、県より+6.8)
- 先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う。(86.8%、全国より+8.8)

自己肯定感が高く、学校が好きな生徒が多い。今後も「褒めて伸ばす」指導を継続し、自己肯定感等を高めていきたい。

学習に関しては、

- 家で学校の授業の予習をしている。(45.7%、県より+7.6)
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(92.6%、県より+3.3)
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(83.7%、県より+9.0)

のように、学習に前向きな気持ちをもつ生徒が多い。

一方、その気持ちが努力へ結びついていない、家庭学習(特に復習)に十分取り組めていない生徒もいる。

- 家で授業の復習をしている。(56.6%、県より-7.1%)
- 携帯電話・スマートフォンを1日に2時間以上使っている。(26.0%、県より+3.1%)
- 授業以外の、月～金曜日の1日あたりの勉強時間 → 勉強時間が少ない傾向
2時間以上やっている(27.2%、県より-8.8%)
30分より少ない + 全くしない(17.5%、県より+6.0%)

これからも家庭学習や情報モラル教育の充実を図り、学力向上に努めていきたい。